

NEW JAPAN  
*P*HILHARMONIC  
SUMIDA, TOKYO

50<sup>th</sup>  
Anniversary 1972-2022

新日本フィルハーモニー交響楽団  
2022/2023シーズン

2022

10

October

TADAAKI OTAKA



TOSHIYUKI KAMIOKA



# 10

2022/2023 Season  
October

## 新日本フィルハーモニー交響楽団 10月演奏会

### Contents

トリフォニーホール・シリーズ/サントリーホール・シリーズ #644 石川亮子	1
R. シュトラウス：4つの最後の歌 歌詞対訳	6
すみだクラシックへの扉 #10 小室敬幸	11
楽員ストーリーズ ⑳ 岡 北斗 (オーボエ)	19
NJP from Inside	20
NJP50周年誌…こぼれ話 齋藤 克	23
NJP 11月公演 片桐卓也の《鑑賞のツボ》	25
2022/2023シーズン 定期演奏会プログラム	26
室内楽シリーズ	29
「パトロネージュ・システム」のご案内	32

### ■特別支援企業

オリックス

in 鹿島

CCC

大和証券

東京東信用金庫

NOMURA

フジサンケイグループ

三井住友銀行

### ■特別支援団体

公益財団法人 オリックス宮内財団

特別支援企業/団体は、新日本フィルの運営を支援しています。

### 〈ご来場のお客様へ〉

下記ご協力下さいますようお願いいたします。

マスク着用

手指のアルコール消毒

OK! 体温測定

サイン会の中止

ソーシャルディスタンス

声にご注意



Triphony Hall Series  
Suntory Hall Series  
2022-2023 Season  
#644

# 10.1 [土]

## トリフォニーホール・シリーズ

新日本フィルハーモニー交響楽団  
トリフォニーホール・シリーズ 第644回定期演奏会  
2022年10月1日(土) 14時00分  
すみだトリフォニーホール

# 10.3 [月]

## サントリーホール・シリーズ

新日本フィルハーモニー交響楽団  
サントリーホール・シリーズ 第644回定期演奏会  
2022年10月3日(月) 19時00分  
サントリーホール

●R. シュトラウス (1864-1949)

Richard Strauss

セレナード 変ホ長調 op. 7, TrV 106

Serenade in E-flat major, op. 7, TrV 106

約10分

4つの最後の歌 op. posth. TrV 296 \*

Vier letzte Lieder, TrV 296 \*

約20分

- I. 春 Frühling
- II. 九月 September
- III. 眠りにつく時に Beim Schlafengehen
- IV. 夕映えの中で Im Abendrot

—— 休憩20分 ——

交響詩「英雄の生涯」op. 40, TrV 190

Ein Heldenleben, op. 40, TrV 190

約40分

- I. 英雄 Der Held
- II. 英雄の敵 Des Helden Widersacher
- III. 英雄の伴侶 Des Helden Gefährtin
- IV. 英雄の戦場 Des Helden Walstatt
- V. 英雄の業績 Des Helden Friedenswerke
- VI. 英雄の隠遁と完成 Des Helden Weltflucht und Vollendung

[指揮] 尾高忠明

Tadaaki Otaka, Conductor

[ソプラノ] ユリアーネ・バンゼ \*

Juliane Banse, Soprano \*

[コンサートマスター] 崔(チェ)文洙/伝田正秀

Munsu Choi & Masahide Denda, Concertmaster

- 主催：公益財団法人 新日本フィルハーモニー交響楽団
- 共催：すみだトリフォニーホール [10/1公演]
- 特別協賛：オリックス、オリックス宮内財団
- 助成：文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術創造活動活性化事業)  
独立行政法人 日本芸術文化振興会

アラーム付時計、携帯電話等をお持ちのお客様は、演奏中に鳴らないようお確かめください。  
演奏途中でのご入場、場内での録音および撮影はかたくお断りいたします。



オリックス株式会社  
公益財団法人 オリックス宮内財団





© Martin Richardson

尾高忠明 [指揮] Tadaaki Otaka, Conductor

1947年生まれ。国内主要オーケストラへの定期的な客演に加え、ロンドン響、ベルリン放送響など世界各地のオーケストラへ客演。これまで91年度第23回サントリー音楽賞受賞。93年ウェールズ音楽演劇大学より名誉会員の称号、ウェールズ大学より名誉博士号、97年英国エリザベス女王より大英勲章CBEを、さらに99年には英国エルガー協会より、日本人初のエルガー・メダルを授与されている。2012年有馬賞(N響)、14年北海道文化賞、18年度関西音楽クリティック・クラブ賞本賞、大阪文化祭賞、日本放送協会放送文化賞、19年第49回JXTG音楽賞洋楽部門本賞を受賞、21年旭日小綬章を受章。

現在NHK交響楽団正指揮者、大阪フィルハーモニー交響楽団音楽監督、BBCウェールズ・ナショナル管絃桂冠指揮者、札幌交響楽団名誉音楽監督、東京フィルハーモニー交響楽団桂冠指揮者、読売日本交響楽団名誉客演指揮者、紀尾井ホール室内管絃楽団桂冠名誉指揮者。東京藝術大学名誉教授、相愛大学、京都市立芸術大学客員教授、国立音楽大学招聘教授。2021年から東京国際音楽コンクール(指揮)の審査委員長に就任。



© Susie Knoll

ユリアーネ・バンゼ [ソプラノ] Juliane Banse, Soprano

南ドイツに生まれ、チューリヒで育つ。チューリヒ歌劇場で学び、ミュンヘンでブリギッテ・ファスベンダーとダフネ・エヴァンゲラトスに師事。

20歳で『魔笛』のパミーナ役でベルリン・コーミッシェオーパーに出演し注目を集め、チューリヒ歌劇場でホリガーによるオペラ『白雪姫』世界初演でタイトルロールを歌う。『薔薇の騎士』マルシャリン、『ローエングリン』エルザなどで評価を高め、伯爵夫人(フィガロの結婚)、フィオルティリージ、ドンナ・エルヴィーラ、レオノーレ、アラベラ、タチャーナなど、幅広いレパートリーで活躍。現代オペラの出演も多い。近年、METでは『アラベラ』ズデンカを歌っている。コンサートでも、マゼール、シャイー、ハイティンク、ウェルザー=メスト、メータ、ホーネック等の指揮者と共演。歌曲や室内楽でも高い評価を受けている。

2016/17年からデュッセルドルフのローベルト・シューマン音大で教授を務める。2020/21年より、ザルツブルクのモーツァルテウムでも教鞭をとり、さらに国内外でマスタークラスを開催している。

バッハは生きている頃から、すでに時代遅れになっていた——。ヘンデルからモーツァルトへと軽やかな音楽に時代が移りつつあるなかで、カノンやフーガといった対位法を駆使したバッハの厳格な音楽が、永遠の価値を持つと広く認められるようになるのは、19世紀ロマン派に入ってからのことである。

時代の流行のスタイルに乗っていくのか、自分が信じたスタイルを貫くのか、それは今も昔も作曲家にとって大きな課題のひとつだろう。新ウィーン楽派のシェーンベルクは、後期ロマン派、表現主義(無調)、12音技法と作風や語法を変えている。カメレオンと呼ばれたストラヴィンスキーも、印象主義、原始主義、新古典主義と作風を変遷させていき、最後は12音技法による作品も残した。一方で、リヒャルト・シュトラウス(1864~1949)は最後までロマン派であり続けたと言われる。本日演奏されるのは、シュトラウス17歳、84歳、34歳の時の作品。時代や社会、そして芸術や音楽が大きく変わるなか、シュトラウスが貫いたものは何であったのか、じっくり聴いてみることにしよう。

■ R. シュトラウス：セレナード 変ホ長調 op. 7, TrV 106

長年にわたり宮廷管絃楽団の首席奏者を務める等、ホルンの名手として、ミュンヘンを中心に音楽界で活躍した父フランツ。恵まれた環境のなかで、父やその仲間たちから音楽を学んだシュトラウスは、少年時代から大小様々な作品を作曲。本作が書き上げられたのも、1881年11月11日のことだった。初演は1882年11月27日ドレスデンにて。翌年には当時の大指揮者、ハンス・フォン・ビューローが演奏会で取り上げ、その後も各地で演奏したことで、若き作曲家シュトラウスの名前は広く知られることになった。

夜、戸外で演奏される音楽であるセレナードは、声楽曲であるとともに、特に南ドイツ・オーストリアでは、多楽章、小編成の器楽曲として発展した。その最も有名な例が、モーツァルトの「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」K. 525であり、本作と同様に管楽器を主体とする13人の奏者のための「グラン・パルティータ」K. 361である。シュトラウスが後者を手本としたことは、編成だけでなく、古典的な明るくのびやかな音楽にも聴き取ることができる。ただし、曲は多楽章ではなく単一楽章で、途中、短調に傾くこともあるものの、全体としては穏やかな雰囲気終始する。

[楽器編成]フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、コントラファゴット、ホルン4、(コントラバス)。

注目を集めた  
若き日の傑作

## ■ R. シュトラウス :

### 4つの最後の歌 op. posth. TrV 296 ※歌詞対訳は6~8頁をご覧ください

大戦後の  
失意のなかで ▶

1945年5月にドイツが無条件降伏した時、すでにシュトラウスは81歳を迎えようとしていた。はからずもナチスに協力したことになったシュトラウスは、1945年10月から1949年5月にガルミッシュに戻るまで、スイス各地のホテルを転々とする生活を余儀なくされた。その間、息子フランツから気分転換に「歌曲でも作曲したら」と言われたことが、「4つの最後の歌」が書かれたきっかけと伝えられる。女声を愛したシュトラウスならではの、かつ、それがピアノではなくオーケストラ歌曲というオーケストラ作品であったところに、作曲家としての矜持が示されている。

死後の出版と初演 ▶

1949年9月8日に作曲者が死去したため、「4つの最後の歌」というタイトル、および現在の曲順は、ロンドンの出版者エルンスト・ロートによって決められたものである。作曲順としては、まずアイヒェンドルフの詩による「夕映えの中で」が書かれ、続いてヘッセの詩による「春」、「眠りにつく時に」、「九月」が完成された(実際には「最後の歌」が、声とピアノのための「あおい」であったことも、後に知られることになった)。初演は、妻パウリーネが後を追うように他界した後、1950年5月22日にロンドンで行われている。しばしば悪妻と評されるパウリーネが、優れたソプラノ歌手であったことは、今さら言うまでもないだろう。

各曲の内容と特徴 ▶

**第1曲「春」**は暗い冬から始まり、やがて光り輝く春が「奇跡の様に」姿を現わす。

**第2曲「九月」**は夏の終わり。穏やかな歩みのなか、ソプラノのメリスマが優しくたなびく。後奏には、ホルンが夏の名残を惜しむように聞こえてくる。

**第3曲「眠りにつく時に」**は夜の世界。昼の現実に疲れ眠りにつくと、魂は「夜の魔法の世界の中で」自由に飛翔する。間奏のヴァイオリン独奏による安らぎに満ちた旋律は、シュトラウスのなかでも最も美しいもののひとつと言われる。

**第4曲「夕映えの中で」**は日没。人生の旅に疲れた二人は、「静謐な平和」のなかで目前に迫る死を予感する。ひばりが静かに飛び去っていくのを、2本のピッコロが描き出して曲は閉じられる。

[編成]ソプラノ独唱、フルート3(ピッコロ3持替)、ピッコロ、オーボエ2、イングリッシュホルン、クラリネット2、バスクラリネット、ファゴット3(コントラファゴット持替)、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、チューバ、ティンパニ、ハープ、チェレスタ、弦楽5部。

## ■ R. シュトラウス : 交響詩「英雄の生涯」 op. 40, TrV 190

ミュンヘン時代を  
締めくくる交響詩 ▶

シュトラウスの重要な功績のひとつは、リストによって創始された交響詩を完成させたことにある。「英雄の生涯」は1898年8月2日にミュンヘンで本格的な作曲が始められ、同年12月27日にベルリンで完成された。1894年にミュンヘン歌劇場指揮者として2度目の契約を結んでから、シュトラウスは「ティル・オイレンシュピーゲルの愉快な悪戯」、「ツァラトゥストラはかく語りき」、「ドン・キホーテ」と、今日も演奏される交響詩の名曲を次々と世に送り出していった。そして、その最後を飾る「英雄の生涯」をもって、次のベルリン時代、すなわちオペラの時代へと移行することになる。

自伝的創作の一面 ▶

オーケストラで詩や風景、物語を自由に描いていく交響詩の世界。シュトラウスの場合は、ティルをはじめ、ほとんどが男性主人公を標題とすることが特徴であり、本作でも4管編成の大オーケストラによって、「英雄」が情熱に燃え、愛する人と出会い、敵と戦い、命を全うしていく姿がドラマティックに描き出される。それとともに、ベートーヴェンの交響曲第3番「英雄」と同じ変ホ長調を基調とすること。第5部「英雄の業績」において、それまでの交響詩を含む様々な自作が引用されること。つまり主人公である「英雄」が、シュトラウス自身を投影した「ある芸術家」であるところに、バルリオーズの「幻想交響曲」と共通する、ロマン派的・自伝的創作の側面を見ることができる。

構成と各曲の特徴 ▶

曲は6つの連続した部分からなる。「英雄」は序奏なしに、いきなり変ホ長調の堂々たる主題から開始される。「英雄の敵」はスケルツォ風の音楽で、口やかましい批評家たちのカリカチュア。「英雄の伴侶」では、ヴァイオリン独奏の活躍が著しい。めまぐるしく表情が変化するのは、シュトラウスによれば妻パウリーネの音楽的肖像であるからで、やがて緩徐楽章的な二人の愛の場面へと導かれる。ここまでがソナタ形式における提示部として分析される。

「英雄の戦場」は展開部と言える部分で、典型的な戦いの音楽となる。そのクライマックスで冒頭の「英雄」が再現され、そのまま短縮された再現部の役割を果たす。「英雄の業績」は1つめのコーダで、「英雄の生涯」にいたるまでの作品が対位的に折り重なるように引用されていく。「英雄の隠遁と完成」は2つめのコーダ。寄り添いながら歌うホルン(英雄)とヴァイオリン独奏(その伴侶)が、変ホ長調の響きのなかに美しく溶け込むように終わる。

[楽器編成]フルート3、ピッコロ、オーボエ4(イングリッシュホルン持替)、クラリネット2、Es管クラリネット、バスクラリネット、ファゴット3、コントラファゴット、ホルン8、トランペット5、トロンボーン3、テナーチューバ、チューバ、ティンパニ、大太鼓、テナードラム、小太鼓、シンバル、吊しシンバル、トライアングル、タムタム、ハープ2、弦楽5部。



## リヒャルト・シュトラウス:4つの最後の歌

Richard Strauss: Vier letzte Lieder

## 1. Frühling

In dämmrigen Grüften  
Träumte ich lang  
Von deinen Bäumen und blauen Lüften,  
Von deinem Duft und Vogelgesang.

Nun liegst du erschlossen  
In Gleiß und Zier,  
Von Licht übergossen  
Wie ein Wunder vor mir.

Du kennst mich wieder,  
Du lockest mich zart,  
Es zittert durch all meine Glieder  
Deine selige Gegenwart.

Hermann Hesse

■歌詞との相違点: 第1連 4行目 *Vogelsang*

## 2. September

Der Garten trauert,  
Kühl sinkt in die Blumen der Regen.  
Der Sommer schauert  
Still seinem Ende entgegen.

Golden tropft Blatt um Blatt  
Nieder vom hohen Akazienbaum.  
Sommer lächelt erstaunt und matt  
In den sterbenden Gartentraum.

## 1. 春

小暗い墓の中で  
長い間私は夢見ていた  
おまえの木々と青い空を  
おまえの香りと鳥の歌を。

今おまえは、姿を現し  
輝きと飾りをまとって横たわる、  
あふれるほどに光を浴びて  
一つの奇跡の様に、私の前に。

おまえは再び私に気づき、  
私を優しくいざなう。  
私の全身を貫いてわななかせる、  
おまえが今ここにある事のこの上ない喜びが。

ヘルマン・ヘッセ

## 2. 九月

庭は嘆き悲しみ、  
雨は冷え冷えと花々の中に落ちる。  
夏は身震いし、  
静かに、その終わりに向かってゆく。

黄金のしずくの様に、一枚、また一枚  
高いアカシアの木から葉が落ちる。  
夏は、いぶかしげに、弱々しく微笑みかける、  
潰えようとする庭の夢の中へと。

Lange noch bei den Rosen  
Bleibt er stehen, sehnt sich nach Ruh.  
Langsam tut er die großen,  
Müdgewordnen Augen zu.

Hermann Hesse

■歌詞との相違点: 第3連 3、4行目  
Langsam tut er die / müdgewordnen Augen zu.  
["großen (大きい)"を欠く]

## 3. Beim Schlafengehen

Nun der Tag mich müd gemacht,  
Soll mein sehnliches Verlangen  
Freundlich die gestirnte Nacht  
Wie ein müdes Kind empfangen.

Hände laßt von allem Tun,  
Stirn vergiß du alles Denken,  
Alle meine Sinne nun  
Wollen sich in Schlummer senken.

Und die Seele unbewacht  
Will in freien Flügen schweben,  
Um im Zauberkreis der Nacht  
Tief und tausendfach zu leben.

Hermann Hesse

まだしばらくは、薔薇のかたわらに  
安らぎを切に願いながら夏は留まる。  
そして、ゆっくりと、その大きく  
疲れ切った眼を閉じる。

ヘルマン・ヘッセ

## 3. 眠りにつく時に

昼は、私を疲れさせた、  
私の切なる願いを  
星をちりばめた夜がやさしく受け入れて欲しい、  
疲れた子供を迎える様に。

手よ、すべての行為を放棄せよ、  
額よ、すべての考えを忘れよ、  
私のすべての感覚は、今  
まどろみの中に沈もうとする。

そして魂は、誰にも見張られる事なく  
自由な飛翔の内にたゆたおうとする、  
夜の魔法の世界の中で  
深く、千倍も生きるために。

ヘルマン・ヘッセ

#### 4. Im Abendrot

Wir sind durch Not und Freude  
Gegangen Hand in Hand,  
Vom Wandern ruhen wir beide  
Nun überm stillen Land.

Rings sich die Täler neigen,  
Es dunkelt schon die Luft,  
Zwei Lerchen nur noch steigen  
Nachträumend in den Duft.

Tritt her und laß sie schwirren,  
Bald ist es Schlafenszeit,  
Daß wir uns nicht verirren  
In dieser Einsamkeit.

O weiter stiller Friede!  
So tief im Abendrot  
Wie sind wir wandermüde -  
Ist das etwa der Tod?

Joseph von Eichendorff

#### ■歌詞との相違点：

第1連 3行目  
vom Wandern ruhen wir  
[“beide (二人で)”を欠く]

第4連 4行目  
ist *d/es* etwa der Tod

大島 博 訳

※ここでは編者の方針により、原詩とその対訳を掲載した。楽曲中の歌詞と異なる箇所については、その都度「歌詞との相違」として注記した。また、原詩と歌曲のテキストの相違のうち、内容の理解にほとんど影響がないもの(例：ss と ß や lockest と lockst 等の表記の違い、コンマ、コロンの違い等)には特に言及していない。

全音楽譜出版社刊「リヒャルト・シュトラウス：四つの最後の歌」より転載許諾済み

#### 4. 夕映えの中で

僕たちは苦しみも喜びも踏み越えて  
手を携えて歩いて来た。  
そのさすらいから、僕たち二人は安らう、  
今、静かな土地を見下ろす場所で。

周りでは、谷々が底へ向かって落ち込み、  
空は既に暗くなる。  
わずかに、二羽のひばりだけが舞い上がる、  
夢見つつ霞の中へと。

間もなく眠りの時が来る。  
ここへおいで、ひばりは飛ぶにまかせて、  
僕たちがこの孤独の中で  
迷う事のないように。

おお、悠揚として静謐な平安よ！  
こんなにも深い夕映えの中で  
何と僕たちは旅に疲れている事かー  
これが、あるいは死というものなのだろうか？

ヨーゼフ・フォン・アイヒェンドルフ

## 「あした」は、ナニイロ？

鹿島のしごと。

それは「あした」をつくること。

人と自然と向き合って、

よりよい毎日をつないでいくこと。

暮らしを描く、ものづくり。

無限の創造力で、彩り豊かな未来へ。

100年をつくる会社

in 鹿島



SHARE LOUNGE

## 発想が生まれ、シェアする場所

シェアラウンジは、ラウンジの居心地と本による提案、オフィスの機能性を兼ね備え、訪れた人に「新しい発想を提供する場所」です。

新たな発想は心を躍らせ、生活を明るくし、世界をほんの少し良い場所にしてくれるもの。働く人だけでなく、お子さまや学生、主婦の方など、すべての人たちが日々の暮らしの中で、発想を必要としています。

ここに集まる多様な人々が風景をつくり、そこにいるだけで刺激がもらえたり、本からインスピレーションを得ることもできる。ある時は居心地の良いカフェやバーとして、またある時は体験を促すイベントスペースとして。

新たな発想を生む、たくさんの仕掛けが詰まった空間です。

SHARE LOUNGE by Culture Convenience Club

### [SHARE LOUNGE]

代官山 蔦屋書店/渋谷スクランブルスクエア/下北沢/亀戸ほか、全国に順次拡大中。  
最新の店舗一覧はアプリをご覧ください。



SHARE LOUNGE  
公式アプリ

App  
Store



Google  
Play



SUMIDA  
TOBIRA of classic  
2022-2023 Season  
#10

10.14 [金] 15 [土]

すみだクラシックへの扉

新日本フィルハーモニー交響楽団 定期演奏会 すみだクラシックへの扉 第10回  
2022年10月14日(金)14時00分 すみだトリフォニーホール  
10月15日(土)14時00分 すみだトリフォニーホール

#### ●モーツァルト (1756-91)

フルートとハープのための協奏曲 八長調 K. 299 (297c) \*

約30分

Wolfgang Amadeus Mozart: Concerto for Flute and Harp in C major, K. 299 (297c) \*

- I. Allegro
- II. Andantino
- III. Rondeau: Allegro

#### ●ベートーヴェン (1770-1827)

ピアノ協奏曲第4番 ト長調 op. 58 \*\*

約35分

Ludwig van Beethoven: Piano Concerto No. 4 in G major, op. 58 \*\*

- I. Allegro moderato
- II. Andante con moto
- III. Rondo: Vivace

—— 休憩20分 ——

#### ●ブラームス (1833-97)

交響曲第2番 二長調 op. 73

約45分

Johannes Brahms: Symphony No. 2 in D major, op. 73

- I. Allegro non troppo
- II. Adagio non troppo
- III. Allegretto grazioso (Quasi andantino) – Presto ma non assai
- IV. Allegro con spirito

#### [指揮] 上岡敏之

Toshiyuki Kamioka, Conductor

[フルート] 上野星矢 \* [ハープ] 山宮るり子 \* [ピアノ] 田部京子 \*\*

Seiya Ueno, Flute \* Ruriko Yamamiya, Harp \* Kyoko Tabe, Piano \*\*

[コンサートマスター] 崔(チェ)文洙/伝田正秀

Munsu Choi & Masahide Denda, Concertmaster

\* ラルス・フォークト氏逝去により、指揮を上岡敏之氏、ピアノ独奏を田部京子氏が務めます。

- 主催：公益財団法人 新日本フィルハーモニー交響楽団
- 共催：すみだトリフォニーホール
- 特別協賛：オリックス、オリックス宮内財団
- 助成：文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術創造活動活性化事業)  
独立行政法人 日本芸術文化振興会

アラム付時計、携帯電話等をお持ちのお客様は、演奏中に鳴らないようお確かめください。  
演奏途中でのご入場、場内での録音および撮影はかたくお断りいたします。



オリックス株式会社  
公益財団法人 オリックス宮内財団







© 堀田力丸

## 上岡敏之 [指揮] Toshiyuki Kamioka, Conductor

東京藝術大学でマルティン・メルツァーに指揮を師事し、作曲、ピアノ、ヴァイオリンも並行して学ぶ。安宅賞受賞。後にロータリー国際奨学生としてハンブルク音楽大学に留学し、クラウスペーター・ザイベルに指揮を師事。キール市立劇場ソロ・コレペティートルおよびカペルマイスターとして歌劇場でのキャリアをスタートさせた。その後、ヘッセン州立歌劇場音楽総監督、北西ドイツ・フィル首席指揮者、ヴッパータール市立歌劇場音楽総監督、ザールラント州立歌劇場音楽総監督、ヴッパータール響首席指揮者等を歴任し、ヴッパータール市立歌劇場インテンダントの要職を務めた。ヴッパータール響とは二度の日本ツアーを行い、絶賛を博した。日本では、2016年シーズンより5年間にわたり新日本フィルハーモニー交響楽団音楽監督を務めた。2002年ホテルオークラ音楽賞、2007年第15回渡邊暁雄音楽基金 音楽賞・特別賞、2014年第13回齋藤秀雄メモリアル基金賞を受賞。リリースしたCDはいずれも話題を呼ぶ。現在、コペンハーゲン・フィル首席指揮者、ザールブリュッケン音楽大学指揮科正教授。



## 上野星矢 [フルート] Seiya Ueno, Flute

19歳で世界的フルート奏者の登竜門である第8回ジャン=ピエール・ランバル国際フルートコンクール(フランス)で優勝し、その後世界を舞台に活躍する日本を代表するアーティスト。パリ国立高等音楽院、ミュンヘン音楽大学大学院卒業。同年、ファーストアルバム『万華響』でデビューし、『デジタルバード組曲』、『into Love』、『テレマン:無伴奏フルートによる12の幻想曲』、『W.F.パッサ : 2つのフルートの為のソナタ集』の計5枚のCDを発表。2014年にはニューヨーク・ヤングアーティスト・コンペティション(New York Young Concert Artist 2014)にて優勝し2015年秋に全8か所のアメリカツアーを成功させ、ケネディセンターでのリサイタル、最終公演はニューヨーク・カーネギーホールでリサイタルデビューを果たした。これまでにチェコ・フィル八重奏団、イル・ド・フランス国立管、デュッセルドルフ響、オーヴェルニュ室内管、新日本フィル、名古屋フィル、神奈川フィル、群響、札響、東響など多数のオーケストラと共演。杉並区文化功労賞、第25回青山音楽賞新人賞、第17回ホテルオークラ音楽賞受賞。大阪音楽大学准教授。



## 山宮るり子 [ハープ] Ruriko Yamamiya, Harp

新潟市出身。山田ふたば、山崎祐介、グザヴィエ・ドゥ・メストレの各氏に師事。2007年渡独、ハンブルク国立音楽演劇大学を首席で卒業後、同大学院にてドイツ国家演奏家資格を最優秀の成績にて取得。在学中よりドイツやフランスを中心に演奏活動をスタートさせる。2015年帰国。2001年東京交響楽団公演(飯森範親指揮)でプロデビュー。2009年第58回ミュンヘン国際音楽コンクール・ハープ部門第2位、2011年リリー・ラスキーヌ国際ハープコンクール(パリ)優勝はいずれも日本人初の快挙。国内ではこれまでに東響、N響、兵庫PAC管、神奈川フィル、東京フィル、日本フィル、都響、千葉響、群響と共演。トッパンホールランチタイムコンサート、紀尾井ホール「明日への扉」、東京オペラシティ文化財団「B→C」出演。NHK-BS「クラシック倶楽部」、テレビ朝日「題名のない音楽会」に出演。ケルン・ギェルツェニヒ管弦楽団首席ハーピストを経て、帰国後はソロ、室内楽を中心に活動。2016年『スパイラル』でCDデビュー。2020年『プリエール〜モルダウ』発表、いずれもレコード芸術誌にて特選盤に選ばれる。



© Akiira Muto

## 田部京子 [ピアノ] Kyoko Tabe, Piano

17歳で日本音楽コンクール優勝。東京藝術大学に進学後、ベルリン芸術大学、大学院を首席で卒業。エピナル国際ピアノコンクール優勝、シュナーベルコンクール優勝、ミュンヘン国際音楽コンクール(ARD)第3位など受賞。バイエルン放送響、バンベルク響、モスクワ・フィルなど多数の国内外オーケストラと共演するほか、世界のトップアーティストから共演者に指名され厚い信頼を寄せられている。CDは35枚リリース、多くが国内外で特選盤に選出。大成功を収めているリサイタルシリーズは、現在進行中の『シューベルト・プラス』が好評を博している。2020年にはベートーヴェンのピアノ協奏曲二長調 op. 61 (ヴァイオリン協奏曲二長調 op. 61 のピアノ協奏曲版)と「皇帝」をサントリーホールで一夜に2曲演奏し高い評価を得ている。今年1月には、田部京子に献呈された「シューベルト：ピアノソナタ第21番ピアノ協奏曲版(吉松隆編曲)」の世界初演が話題を呼んだ。第一線で演奏活動を続ける傍ら、桐朋学園大学院大学教授を務める。日本を代表する実力派ピアニストとしてますます人気を集めている。  
公式HP : <http://www.kyoko-tabe.com>



本日演奏される3名の作曲家は全員、オーストリアの首都ウィーンで活躍していたことが知られているが、生まれたのはウィーンではなかった（モーツァルトはザルツブルク、ベートーヴェンはドイツのボン、ブラームスはドイツのハンブルク）。ちなみに生粋のウィーンっ子として音楽の都で生まれ育った作曲家としてはシューベルトや、シェーンベルクを筆頭とする新ウィーン楽派のベルクとウェーベルンが該当する。

それにしてもウィーンはいつから音楽の都だったのだろうか？ 神聖ローマ帝国の首都となった15世紀末からヨーロッパの中心地となったウィーンは、16世紀からハプスブルク家出身の皇帝によって統治された。そのなかで1508年に皇帝となったマクシミリアン1世（1459～1519）が創設した少年聖歌隊は、現在のウィーン少年合唱団の前身とされる。また1658年に皇帝となったレオポルト1世（1640～1705）は自身が優れた能力をもつ作曲家でもあったため、音楽に対して積極的に支出を行った。こうした積み重ねが、ウィーンを音楽の都にしたのであろう。

### ■ モーツァルト：

#### フルートとハーブのための協奏曲 ハ長調 K. 299 (297c)

1778年2月4日、アロイジア・ヴェーバーという若いソプラノ歌手をプロデュースしてイタリアで成功させようという試みを、モーツァルトは父親レオポルト宛の手紙で打ち明けている。レオポルトは息子が偉大な宮廷楽長として後世に記憶されることを望んでいたため、慌てて反対の意見を返し、パリに行って自分の名を売るように指示した。

渋谷、父親の意向を汲んでフランスを訪れたモーツァルトは父親の知人である男爵からの紹介で、フルートを吹くド・ギーヌ公爵とハーブを弾くその娘と出会う。アマチュアながら玄人はだしの実力を持っていたこの親子のために書き下ろされたのが本作だ。当時、パリで流行していた複数楽器を独奏者とする協奏交響曲のスタイルも意識したと思われる。

**第1楽章** 協奏ソナタ形式（提示部①—提示部②—展開部—再現部—カデンツァ—結尾）。管弦楽が中心となる提示部①を経て、2つの独奏楽器が華麗に絡み合う提示部②へ。展開部で短調となって陰りがコントラストを生み出す。

**第2楽章** ソナタ形式。弦楽だけとなったオーケストラが第1主題、まず

フルート次いでハーブが奏する第2主題を奏するが、大きなドラマは生まれずに穏やかな世界が続いてゆく。

**第3楽章：ロンドー** ロンド・ソナタ形式。前2楽章よりも2つの独奏楽器が独立して活躍したり、管弦楽の響きを薄くしたりすることで、室内乐的な性格を強めている。

[楽器編成]フルート独奏、ハーブ独奏、オーボエ2、ホルン2、弦楽。

### ■ ベートーヴェン：ピアノ協奏曲第4番 ト長調 op. 58

詩情溢れる佳作 ▶

1803年4月5日に初演されたベートーヴェンのピアノ協奏曲第3番ハ短調は、古典派的なピアノ協奏曲から離れ、ロマン派的なスタイルへと第一歩を踏み出した作品として知られる。例えば第2楽章における独奏ピアノの書法は、（間にフェルディナント・リースを挟んだ上で）ショパンの祖先にあたるのだ。更にロマン派への歩みを推し進めたのが1805～06年にかけて作曲された次作——つまり、このピアノ協奏曲第4番である。

独奏ピアノから始まる ▶  
構成(全3楽章)

**第1楽章** ソナタ形式。まだ協奏ソナタ形式の枠組みは保たれているが、冒頭5小節を独奏ピアノだけにしたのはやはり画期的。その後続く、管弦楽でロ長調に転調する際に表出する静謐さは、本作の内省面を象徴している。同音反復によるシンプルな主題は、ピアノ・ソナタ第23番「熱情」、ヴァイオリン協奏曲、交響曲第5番「運命」と、この時期の作品に度々現れる傾向だ。単純だからこそ主旋律だけでない至るところに主題を潜り込ませることが出来るのだ。

**第2楽章** ほぼ三部形式。弦楽と独奏ピアノが交互にダイアログを繰り広げ、間奏曲のような役割を果たす。

**第3楽章：ロンド** 第1楽章の同音反復主題がリズムを変えてロンド主題に。その間に性格の異なる挿入句が挟み込まれたり、転調を繰り返したりしてフィナーレに相応しい盛り上がり築く。

[楽器編成]ピアノ独奏、フルート、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン2、トランペット2、ティンパニ、弦楽5部。

### ■ ブラームス：交響曲第2番 二長調 op. 73

美しい自然を満喫して ▶

1876年11月4日、20年越しで作曲が試みられてきた交響曲第1番を初演。その後も第2～3楽章に直しを入れ、1877年5月末に決定稿を出

パリの侯爵からの  
依頼で作曲

全3楽章の構成と特徴 ▶

出版社へ送ったことでヨハネス・ブラームス(1833~97)は遂に、交響曲第1番創作との闘いに終止符を打った。6月9日、休暇を兼ねてウィーンから300kmほど離れたペルチャハに訪れるのだが、湖と山々に囲まれたこの地に感銘を受けたブラームスは「ここには旋律が飛び交っている」と語り、すぐに創作意欲をたぎらせていく。

▶ 短期間で完成、初演の評価

クララ・シューマンの日記に「ヨハネスが今晚やってきて、彼の交響曲第2番ニ長調の第1楽章を聴かせてくれましたが、これは私を大いに喜ばせるものでした。この曲の創作が、第1交響曲の第1楽章よりも重要であると私は感じています。[中略]この交響曲は第1番よりも観客に対して、決定的な成功を収めるでしょう」と書かれているのは1877年10月3日のこと。4ヶ月経たずして第1楽章が仕上がったことだけでなく、試演の段階から極めて高く評価されていたことが分かるだろう。事実、同年12月30日にハンス・リヒターの指揮するウィーン・フィルハーモニー管弦楽団によって初演された際にも、聴衆のみならず楽団員たちからもブラームスを褒め称える声があとを絶たなかった。

▶ 全4楽章の構成と特徴

**第1楽章** ソナタ形式。ブラームスを感動させたペルチャハの風景が目に浮かぶような美しい旋律が連なっていく。冒頭で提示された基本となる素材が組み合わせられたり変奏されたりすることで、その後の息の長い旋律が形作られていく作曲手法は、実にブラームスらしい。とりわけ重要なのが楽章冒頭で低弦が奏する「レ・ド#・レ」という[谷型音形]で、展開部で執拗に繰り返されるだけでなく他楽章の主題とも関係付けられている。

**第2楽章** ソナタ形式(だが聴く分には三部形式と捉えれば充分だ)。いわゆる緩徐楽章で、全4楽章のなかで唯一メランコリックな雰囲気支配する。

**第3楽章** 五部形式(A-B-A'-B'-A'')。再び緩徐楽章のように見せかけておいて、その実はスケルツォ。本来のテンポ関係が逆転して、主部Aが遅く、中間部B(トリオ)が速くなっているのだ。どちらも夏を満喫する雰囲気に満ち満ちている。

**第4楽章** ソナタ形式。楽章冒頭の第1主題と、第1ヴァイオリンが低い音域で提示し始める第2主題はどちらも[谷型音形]に由来している。そうした細部へのこだわりも詰まっているが、前面に押し出されるのはブラームスの創作意欲の迸りだ。

[楽器編成]フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、チューバ、ティンパニ、弦楽5部。



# Passion for the Best

その情熱が、可能性をひらく。

限界を超えて、ベストをひたむきに追い求める。

大和証券グループは、挑み続ける情熱を失わない、すべての人を応援します。

大和証券グループ